

2016  
3  
Vol.111

# 筑豊小児科医会会報

発行：飯塚病院小児科



## CONTENTS

§ 筑豊小児科医会のご案内	1
§ 小児科医会報告	2
§ 飯塚病院月間診療のまとめ	3
§ 地域連携ささえあい小児診療	4
§ 異動のお知らせ	4
§ お知らせ	5

### § 筑豊小児科医会のご案内

#### ■第 274 回

●日 時：2016年3月17日（木） 18:45～

●場 所：のがみプレジデントホテル

▶平成27年度 筑豊小児科医会 総会 18:45～19:00

▶一般講演 19:00～19:15

「平成27年の飯塚病院小児科診療のまとめ」

飯塚病院 小児科 岩元 二郎

▶特別講演 19:15～20:15

「アレルギー内科の診療」～成人食物アレルギーと減感作療法など～

独立行政法人 国立病院機構 福岡病院 アレルギー科 岸川 禮子 先生

\*終了後に意見交換会があります。

#### ■第 275 回

●日 時：2016年4月14日（木） 18:45～20:20

●場 所：飯塚病院 北棟4階 多目的ホール

▶一般講演：小児救急に関する演題（2題予定）

▶特別講演 19:20～20:20

「産業保健からみたコンビニ受診問題」

久留米大学 環境医学講座 助教 松本 悠貴 先生

\*軽食（弁当）があります。

### 〈その他講演会のお知らせ〉

#### ■平成27年度 第6回筑豊地域小児在宅医療研修会

●日 時：2016年3月25日（金） 18:30～20:30

●場 所：のがみプレジデントホテル

平成27年度 第6回筑豊地域小児在宅医療研修会

「筑豊地域の小児在宅医療の現状を知る」

～今何ができて、何ができていないのか、医療・教育・福祉の現状～

\*全員参加型のワークショップ形式の研修会です。

\*参加登録が必要です。

\*終了後に軽食による座談会を予定しています。

「てんかん症候群と新規抗てんかん薬の選択」

福岡大学病院 医学教育推進講座 小児科 安元 佐和 先生

### 〇はじめに

てんかんに対する抗てんかん薬は、2008 年のラモトリギン (LTG) の登場以来、ガバペンチン (GBP)、トピラマート (TPM)、スチルペンツール (STP)、2013 年のレベチラセタム (LEV) と、次々に新規抗てんかん薬が開発され、てんかん治療が大きく様変わりしてきている。これまでの抗てんかん薬はバルプロ酸 (VPA) とカルバマゼピン (CBZ) が主流で、初回治療として焦点発作は CBZ か VPA、全般発作は VPA、発作型が不明な時は VPA という基本的なスタンスがあったものの最近では新規抗てんかん薬が単独で初回投与できるようになってきた。

### 〇てんかん症候群の理解

小児のてんかんは年齢依存性が高く、好発年齢があるてんかん症候群として理解することが大事である。乳幼児期は、症候性の全般てんかんとしてウエスト症候群やレンノックス・ガストー症候群、乳児重症ミオクロニーてんかん（ドラベ症候群）があり、脳の器質性病変を伴う症候性の難治性てんかんが特徴である。学童期以降に起こりやすくてんかんとして、中心・側頭部に棘波を示す良性てんかん (BECTS: ベクト、ローランドてんかん)、後頭部に突発波をもつ小児てんかん (パナエトポラス症候群)、小児欠神てんかんなどがある。思春期頃の発症として若年ミオクロノステんかん (JME) や覚醒時大発作てんかんなどがある。

### 〇てんかん症候群の分類

特発性（原因不明）と症候性（原因あり）、部分（脳の一部分から発作が始まるタイプ）、全般（脳の全体が一気に発作を起こすタイプ）に分けられる。特発性部分てんかんの代表が BECTS とパナエトポラス症候群、特発性全般てんかんの代表的なものが、良性新生児家族性てんかん、良性新生児てんかん、乳児良性ミオクロニーてんかん、小児欠神てんかん、若年欠神てんかん、若年ミオクロニーてんかん、覚醒時大発作てんかんなどがあり、概ね特発性のものは、良性てんかんとして予後は良いものが多い。

症候性の部分てんかんは、成人発症に多く、発作が始まる前に何らかの前兆を認めることが多く、脳の発作部位から前頭葉てんかん、側頭葉てんかん、頭頂葉てんかん、後頭葉てんかんなどがある。症候性全般てんかんは、新生児期から乳児期にかけて発病しやすく、発作回数も多く、精神遅滞や神経症状などでてんかん性脳症を来すこともある。代表的なものにウエスト症候群やレンノックスガストー症候群、乳児重症ミオクロニーてんかん（ドラベ症候群）などがあり、難治性てんかんが多い。

### 〇代表的な抗てんかん薬

バルプロ酸 (VPA) は、女性の妊娠中の服用で胎児に対する催奇形性の問題があり、思春期以降は使わないような方向性になっているが、内服量が多くなければ（1 日 1,000 mg 未満）、問題ないとする見解もある。1 日 1,500 mg 以上の高用量の内服では 24% に催奇形性の発症率、また子どもの認知や IQ にも影響を与えるという報告もある。

レベチラセタム (LEV) は、新規抗てんかん薬として欧米では、発症年齢や発作型にも幅広い適応がある。米国では 1 歳以上の部分てんかん、6 歳以上の全身性強直間代発作 (GTCS) に、12 歳以上の若年性ミオクロニーてんかん (JME) に適応がとれている。新生児てんかんにも有用性が高いと言われている。

ラモトリギン (LTG) は重篤な皮疹 (SJS, TEN など) に注意が必要。

## ○代表的なてんかん症候群

小児欠伸発作はVPA、**エトサクシミド (ESM)** がファーストチョイスだが、若年性ミオクローニーてんかん (JME) に移行例もあり、注意深い経過観察が大事である。**CBZ** や **PHT**、**GBP** で悪化しやすいので注意が必要。

JMEはVPAが著効するものの、VPAの副作用の問題から海外では、LEVやLTGがファーストチョイスで使われることが多い。断薬や怠薬すると高率で発作が再燃することが多く、思春期以降も長期内服が必要と言われている。

ウエスト症候群は、脳波上は**ヒプスアリスミア**が特徴的で、治療はACTH療法が主体であったが、最近では結節性硬化症によるものでは**ビガバトリン (VGB)** が治験で使用されており有用性が証明されている。

レンノックス・ガストー症候群は、ウエスト症候群からの移行が多く、點頭てんかんから**非定型欠伸**など種々の発作が起きやすくなる。脳波は **slow spike and wave complex** が特徴的である。最近ではルフィナビド (RUF) が使用できるようになったものの、蛋白漏出性胃腸症の副作用が報告されている。

ドラベ症候群は、かつては乳児重症ミオクローヌステんかんと言われていたもので、乳児期に発症し、発熱や入浴で発作が起りやすいのが特徴である。非常に難治のてんかんで、けいれん重積や半身けいれん、ミオクローヌス、非定型欠伸などの多彩なけいれんを頻回に反復し、てんかん性脳症を発症し、突然死することもある。Naチャンネルの遺伝子変異として **SCN1A 遺伝子変異** がドラベ症候群の特徴と言われているが、SCN1A 遺伝子変異＝ドラベ症候群でなく、ドラベ以外の病態 (熱性けいれん) でも SCN1A 遺伝子変異が見つかることもあるので判定の際は注意が必要である。治療は **VPA+CLB+STP** (スチルペントール、商品名ディアゴット) の3剤併用療法が主流となり、STPを追加することで重積発作の抑制効果がある。

## § 飯塚病院月間診療のまとめ 《2016年1月》

- 入院患者数 146人 ●外来患者数 1,772人 ●救命救急センター受診者数 1,005人
- 新生児センター入院患者数 24人 ●分娩件数 58件
- 主要疾患数 (退院患者数 ; 117人)

肺炎・気管支炎	28	痙攣及びてんかん	18	低出生体重児	10
新生児呼吸障害・心血管障害	6	喘息	6	急性胃腸炎	4
急性上気道感染症	2	腸重積・腸閉塞	1	その他	42

- 紹介件数 96件 (件)

①	飯塚急患センター	4
	栗原小児科内科クリニック	4
	こどもクリニックもりた	4
	ささきこどもクリニック	4
	弥永内科小児科医院	4
	雪竹医院	4

## § 地域連携ささえあい小児診療

### 地域連携ささえあい小児診療スケジュール ■2016年3月・4月

3月			4月		
3月1日	火	栗原小児科内科クリニック 栗原 潔	4月5日	火	荒木小児科医院 荒木久昭
3月3日	木	津川診療所 津川 信	4月6日	水	飯塚市立病院 穂吉秀隆
3月9日	水	飯塚市立病院 牟田広実	4月7日	木	飯塚病院 小児科 岩元二郎
3月10日	木	飯塚病院 小児科 岩元二郎	4月12日	火	ひじい小児科・アレルギー科 クリニック 肘井孝之
3月15日	火	あざかみこどもクリニック 阿座上才紀	4月13日	水	飯塚市立病院 牟田広実
3月22日	火	飯塚病院 小児科 岩元二郎	4月19日	火	ささきこどもクリニック 佐々木宏和
3月23日	水	飯塚市立病院 穂吉秀隆	4月21日	木	たなかのぶお小児科医院 田中信夫
3月30日	水	川崎町立病院 中村由季	4月26日	火	飯塚病院 小児科 岩元二郎
			4月27日	水	川崎町立病院 中村由季
			4月28日	木	こどもクリニックもりた 森田 潤

2016年3月10日現在

## § 異動のお知らせ

飯塚病院小児科では、本年3月に3名の医師が異動となり、新年度の4月からは新たに5名が加わることとなりましたのでご報告致します。

### 新任

医師名	前任
田中 祥一朗 医師	聖マリア病院
田中 ゆかり 医師	久留米大学病院
田中 玄師（ひろし）医師	久留米大学
松永 遼 医師	北九州市立八幡病院
吉塚 梯子（ていこ）医師	久留米大学

### 退職

医師名	異動先
海野 光昭 医師	聖マリア病院 新生児科
八戸 由佳子 医師	聖マリア病院 小児科
中村 舞 医師	八女公立病院 小児科

新任医師の顔写真入りの紹介は5月号でお知らせ致します。

## § お知らせ

次回の4月号からは、勉強会報告を休止させていただくこととしました。ご了承ください。

(文責：岩元 二郎)

